

【特別支援学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立中原特別支援学校 鳥栖田代分校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度未まで校舎の大規模改修工事等が続きことから、工事の進捗状況に応じて、安全・安心な学習環境の確保に引き続き努めていく。また、教室の引越などの業務増大を見据え、早めの対応で時間外業務の削減に努める。 ・学習指導要領を踏まえた効果的な授業及び支援のあり方の研究を継続し、教職員の特別支援教育に関する専門性の向上を図るとともに、一人ひとりの児童生徒に応じた授業及び指導の充実を図る。 ・教職員の研修の機会を確保し、評価規準及び評価基準を意識した授業の改善を図る。特に、主体的に学ぶ意欲を高める授業展開の工夫やICT活用の推進を行う。 ・令和8年度の鳥栖特別支援学校開設に向けて、特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。
2 学校教育目標	一人一人に応じた指導・支援をとおして、児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に伸ばし、明るくすこやかで豊かな心を持ち、自立し社会参加できる児童生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標	<p>「児童生徒の豊かな生活と成長の保障」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 専門性の更なる向上と教育活動への反映 ② 個に応じた進路指導の充実 ③ 特別支援教育のセンター的機能の充実
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒が適切な指導・支援を受けることができたと回答した保護者を75%以上とする。 ○適切に個別の指導計画を活用することができたと回答した教員を80%以上とする。	・個別の指導計画作成の意義、手続きを職員に周知する。 ・年3回個別の指導計画に基づく検討会をもち、複数の視点から児童生徒の指導や評価を客観的に行う。 ・PDCAサイクルを活用し目標、手立て、変更について共有する。							教務部
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校教育全体において、「豊かな心」を育む教育の趣旨に基づいて教育活動を展開していると回答した保護者及び教員を75%以上とする。	・人権・同和教育に関する校内研修会を実施する。 ・児童生徒に思いやりの心を育む委員会活動や集会を実施する。 ・保護者や地域の方と連携した校外学習や交流行事を実施する。							生活指導部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について、共通理解のもと組織的な対応ができていると回答した保護者及び教員を75%以上とする。	・職員間での積極的な情報交換や毎月のおいじめ認知・認知件数調査を実施する。 ・年2回の保護者アンケートを実施するとともに、毎日の保護者との会話や連絡帳を活用して情報の共有に努める。							生活指導部
●心の教育	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「教員は児童生徒のよいところを認めてくれていると思う」と回答した保護者が75%以上である。 ◎「将来の自立と社会参加に向けて、組織的で効果的な教育活動ができている」と回答した職員が75%以上である。	・進学や将来の自立に向けて、児童生徒や保護者に情報を提供する。 ・児童生徒の将来の自立と社会参加を意識した授業に取り組む。 ・児童生徒に活動の見直しと学びの振り返りを行う授業を仕組む。							進路指導部
	●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○安全な学校環境の整備と健康教育の充実	●「健康に良い食事をしている」児童生徒が70%以上である。 ○授業をとおして、健康な生活を送るための食事について児童生徒の知識と意識が高まっているとする職員が70%以上である。 ○本校の感染症対策基本方針を守っているとする職員が100%である。 ○感染症対策を含め、安全・安心な学校生活が送れていると回答する保護者を80%以上とする。	・職員研修、給食試食会、食育講話等を実施する。 ・食物アレルギーについての研修を行う。 ・給食の時間をとおして、食育に関する指導を行う。 ・本校の感染症対策基本方針を周知徹底する。 ・予防及び指導の徹底を図る。 ・感染者が発生した場合には、改善点を検討する。						保健厚生部
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○鳥栖田代分校は地域の特別支援教育のセンター校の役割を十分に果たしていると回答する保護者及び職員が70%以上とする。	・各職員が有する特別支援教育の専門性や知見を地域支援に活かす。 ・地域の要請に応じて、関係各機関と連携しながら巡回相談を実施する。							地域支援部
	○交流及び共同学習の推進	○学校間、居住地校交流、地域間交流をとおして、相互の理解が深まったとする保護者、職員が80%以上とする。	・年に数回、居住地校交流や地域との交流を図る場を設定し、全職員で協力して取り組む。 ・記録やチェック表を活用し、効果的な打ち合わせを行う。							総務部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守したと回答した職員が80%以上とする。	・年間5回以上の完全定時退勤日を設定する。 ・長期休業中における定時退勤を奨励する。 ・時間外在校等時間が月45時間を超えた職員に対する管理職面接を実施する。							管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ICT活用教育	○児童生徒の特性や合理的配慮に基づく、ICT機器の活用や支援の実施	○児童生徒の特性や合理的配慮に基づくICT機器を使った効果的な授業や支援が実施されていると回答する保護者及び職員が70%以上とする。	・職員が年2回以上は校内外ICT活用に関する研修会に参加する。 ・個別授業やTTにおいて、積極的にICT機器を活用する。							ICT教育支援部
○自立活動の充実	○自立活動指導の充実と教職員の専門性の向上	○自立活動に対する理解が深まり、授業実践をとおして、児童生徒の姿が認められたと回答する教職員が70%以上とする。	・ケース会議等を行いながら自立活動指導計画を作成し、児童生徒の指導に生かす。 ・自立活動の指導について、事例研究会等を行い、指導内容の改善を行う。 ・外部人材も活用しながら、自立活動に関する研修会を行う。							自立活動部

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p>
----------------	-------------------------------